

獨逸近く滿洲國承認

―同盟來電―不發表

ベルリン十七日發マース電

マース通信社ベルリン支局はドイツ政府が近く滿洲國を承認する意向である旨次の如く報じてある

「外交消息通の観測ではドイツ政府は日本の援助により成立せる北京の中華民國臨時政府の承認はまだ考慮してゐないが、滿洲國は近く承認することならう」

ベルリン日本人筋でも滿獨兩國は近々新京及びベルリンに夫々公使館を新設することならうと言明してゐる、東郷駐獨大使は同問題につき過般ノイラート前外相との間に折衝を開始したがノイラート前外相はドイツ政府の行つてゐる日支調停交渉の結果を待つて滿洲國承認問題を決定すべき旨回答した事實がある。尤もリッペンントロップ新外相はドイツ政府の調停交渉が既に失敗に歸してゐる以上滿洲國承認問題をこれ以上遷延する必要なしこの方針を決定したと解される

内閣情報部ニ・一八 情報第七號

―米人宣教師負傷―

―同盟來電―不發表

ニューヨーク十二日發

ニューヨークに達したA・P開封電報によれば米人宣教師ヘレン・バイリー師は十六日黄河のツアオカンで救助作業に従事中バイリー師等の乗つてゐる船に日本空軍の投じた爆弾が命中、負傷を負つた。開封は之迄廿二回に亘り空襲の報告を受けたが、實際に空襲されなかつたのは米國人、邦人その他外國の宣教師が在住してゐる爲だといはれる。